

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年12月末時点）

県単モデル事業等を活用した農地の集積・集約化に取り組む先進地区				茨城県稲敷市 あずま北地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	114経営体 （約29経営体）	農地面積	約531ha ※市街化区域等を除きほぼ すべてが農業振興地域	主な農畜産物	水稻、レンコン
農業地域類型	平地農業地域	遊休農地	約0.4ha	現状の集積率 （目標）	39.7% （45.0%）
地域の現状と課題			将来の地域農業の方向性		
・稲敷市は当該あずま北地区を含み、農地の概ね9割が湿地帯で、当該地域では特に水稻・レンコンの生産が盛ん。 ・平成30年より、農地集積・集約化に関する県のモデル事業（水稻メガファーム事業）等を活用し、農地の集約化等を図ってきた。 ・60代～70代の担い手が多く、後継者が少ないため、今後の担い手不足が課題。			・離農等で発生する新たな農地の貸借や団地化推進のための耕作地交換等の際には、農地バンクを活用し、担い手への農地の集積・集約化を推進する。 ・担い手同士の話し合いを促進し、農地の集約化について検討する。 ・地域内で担い手の確保が難しい場合は、域外農業者の受け入れや新規就農者の育成・定着を図っていく。		
取組内容及び今後の予定			協議を進める過程で発生した課題		
＜状況＞ ・令和5年2月に当該地域においてモデル的な座談会を開催。 ・上記を参考とし、当該地区と他6地区において令和5年10～12月に足並みをそろえた1回目（当該地区は2回目）の座談会を実施。令和6年1～2月に2回目（当該地区は3回目）の座談会を実施。 ・目標地図等について、1回目の座談会が終了したのち、協議内容やアンケートを実施し素案を作成。2回目の座談会で素案を提示し内容を協議してもらい営農者たちの意見を取り入れた。 ・令和6年7月にその他12地区を3エリアとして、まとめて計3回、説明会兼座談会を開催。8月には拡大に関するアンケートを送付、令和5年と同様にその後、素案を作成。 ・10月～11月にかけて地域計画と目標地図の素案を用いて、その他12地区において座談会を実施。上記と同じく営農者たちの意見を取り入れた。 ＜今後の予定＞ ・HPにおいて協議の場の公表を行い、地域計画制定の説明を実施予定。 ・2月に関係機関の意見聴取も行き、最終的に令和7年3月までに策定を行う予定。 ・最終的に策定したものも上記座談会のような話し合いのできる場等を適宜設置することで更新の機会を設け、理想に近づけるように取り組んでいく。			＜座談会で発生した課題＞ ①当該地域が地元ではない担い手などは積極的な発言ができない場合がある。 ②農業技術の話や農地の基盤整備の話等、様々な話題が出るため、JA、普及センター、土地改良区等の参加が必要。 ③各組織、個人の温度差。協議を活性化させる工夫や当事者意識の醸成が求められる。 ＜課題への対応＞ ・座談会におけるグループ分けや話の振り方等を検討し、担い手が積極的に発言できるよう調整。		